



故玉利喜造叙勲ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和六年四月三十日

内閣總理大臣男爵若槻禮次郎



内

閣



七六號 内閣文庫第二四号

昭和六年四月三十日 内閣書記官長

内閣書記官

六四二一
昭和六年五月一日
昭和六年四月三十日

内閣總理大臣「」 賞勳局總裁

故正三位勳二等玉利喜造儀ハ明治二十年東京農林學校教授ニ任セラレ同二十三年東京帝國大學農科大學助教授ト爲リ次テ教授ニ進ミ同三十五年盛岡高等農林學校設立ニ當リ校長ニ任セラレ同四十二年鹿兒島高等農林學校創立ノ際其ノ校長ト

賞勳局

爲リ大正十一年マテ終始熱心子弟ノ薰陶ニ膺レリ其ノ盛岡及鹿兒島農林學校長在職中豊富ナル學識ヲ以テ夫々東北及九州南部ノ開發振興ニ寄與スル所尠カラス又夙ニ南洋方面ニ於ケル本邦人ノ發展ニ著眼シ自ラ渡航シテ資料ヲ蒐集シ鹿兒島高等農林學校ニ熱帶博物館ヲ附置シテ研究ニ資シタリ又同人ハ農學界ノ第一人者トシテ又帝國農會ノ顧問トシテ引續キ

卓越セル識見ト確乎タル實行カトシテ農業ノ開拓ニ任シ其ノ他貴族院議員ニ勅選セラレ院内唯一ノ農學者トシテ農事問題ノ解決ニ樞要ナル地位ニ立テテ盡瘁セル等功績顯著ノ者ニ候處本月二十一日死去セル趣ニ付此際特ニ同日附ヲ以テ勲一等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

内閣

正三位勲二等 玉利喜造

敘勲一等授瑞寶章

右ハ明治十三年駒場農學學校ヲ卒業シ直ニ母校ニ教鞭ヲ執リ 殆ント農學ノ全般ニ涉リテ講義ヲ行ヘリ 同十七年米國ルイジアナ州ニエーオ
ルレアンス府ニ於テ萬國工業並綿百
年期博覽會開催ニ當リ事務官
トシテ農商務省ヨリ派遣セラレ後其

文部省

儘米國ニ留學ヲ命セラレミシガン州々
立農學學校、イリノイ大學等ニ入りテ
研鑽ヲ遂ケ尚歸朝ノ途次政洲ノ
農事ヲ視察シ大ニ見聞シ廣ウスル
所アリタリ、歸朝後直ニ東京農林
學校教授ニ任セラレ二十三年東京帝
國大學ニ農科大學ノ設置セラレ、ヤ
助教授ニ任セラレ次テ教授ニ陞任シ畜
産學園藝學等ノ講座ヲ擔任シタリ
シカ三十二年遂ニ農學博士ノ學位

ヲ授ケラレタリ 同人ハ由來農學一般
ニ精通スト 雖就中 園藝ト畜産
トニ造詣深ク 或ハ果樹蔬菜ノ新
種ヲ輸入シ 或ハ産牛 馬ヲ奨勵シテ
品評會ヲ開催スル等 親シク當業者
ニ接シテ指導誘掖至ラザル所ナシ
同人ハ豫テ高等農林專門教育ノ必
要シカ説スル所アリシカ 明治三十五年
盛岡高等農林學校創立ニ際シ其
設計委員ヲ命ゼラレ又初代同

文 部 省

校長ニ任セラレ大ニ努力スル所アリ 四十
二年 鹿見島高等農林學校創立
ニ當リ再ヒ其ノ初代校長ニ任セラレ
爾來大正十一年ニ至ルマテ終始該
博ナル學識ト崇高ナル人格トヲ以テ
熱心子弟ノ薰陶ニ當リ又常に
敬神愛國ノ念ヲ以テ思想善導ニ
貢獻スル所勤カラス
同人ハ夙ニ民間ニ於ケル農事ノ進歩
發達ニ力ヲ致シ己ニ明治二十二年大

日本農會幹事ニ公選セラシ又參事
常設議負等トシテ多年之盡瘁
シ二十九年ニ紅白綬有功章、三
十年ニ紫白綬有功章ノ贈與ヲ
受ケテ其ノ名譽ヲ表彰セラレタリ

同人ハ夙ニ農業家ノ福利ヲ増進シ
農事ノ改良ヲ圖ルニ農業團體ノ
設立ヲ急務トスル旨ヲ主張シ明治
二十七年大日本農會主催人全國農
事大會ヲ機トシ系統的農會ノ設

文部省

立ッ決議シ後幹旋大ニ努ムル所アリ
遂ニ三十一年全國農事會本部ノ
設立ヲ見ルニ至ル是レ實ニ今日ノ帝
國農會ノ濫觴ニシテ蓋シ從來百事
保守的傾向ヲ帶フル農家ヲシテ僅
々數年間ニ全國府縣郡市所村ニ
亘ル系統農會ヲ組織セシメタルモ亦
異常ノ成績ト謂フヘシ今日我
國ノ農會カ系統的ノ組織ヲ以
テ一致結合シ歩調ヲ整ヘテ農事

ノ改良ニ從フハ實ニ同人當初ノ企
副ニ出ツルモノト云フヘシ

明治三十二年 同人幹事長トナリ
テ專ラ農會ノ事ヲ掌ル而シテ同
年 第七回農事大會開催セラ
ル、ヤ 幾多重要事項ヲ決議セ
ルカ就中 産業組合法制定ノ件
産牛馬組合法制定ノ件 耕
地整理法並肥料 取締法施
行細則發布ノ件 農會令發

文 部 省

布ノ件 肥料取扱所設置ノ件
等最モ主要ナルモノトス 翌三十二年
機關雜誌中 中央農事報ヲ發刊
シテ知識ノ普及並中央地方ノ連
絡ニ便シ前記決議事項ニツキテモ
着々實行ノ緒ニ就キ聽ラ法令ヲ以
テ農會ノ基礎ヲ定ムルニ至リ國庫補
助ノ制ヲモ布カシ後年 帝國農會ノ
設立セラル、ヤ同人ハ特別議員トシテ會務ニ參
副シ後衆望ヲ荷ウテ顧問ニ推サレテ今日

ニ及ヘリ

前述決議事項ノ中全國肥料取
扱所ハ幾多考究シ重ネタル結果
農會監督ノ下ニ株式會社ヲ設立
シテ其ノ目的ヲ達シ又害虫防除
益鳥保護ノ為ニ狩獵法ノ制定ヲ
促シ輸入鶏卵ノ課程問題ニ就テハ
常ニ農民團體ヲ代表シテ保護貿
易ノ必要ヲ極力提唱シテ之ヲ實現
セリ尚其他ノ事項モ逐年同人ノ

文 部 省

主張實現セラレテ農界今日ノ盛運
ヲ見ルニ至レルヲ思ハ農業發達史中同人
ノ功績實ニ赫々タルモノアルヲ認ム
又同人ハ農村教育ニ就テ常ニ心ヲ
用ヒ殊ニ低度農學校短期講習
等ニ關シ畫策スル所多ク且ツ地主
ノ子弟等カ中學校卒業後家業
ヲ厭ヒ農村ヲ忌避スルノ傾向アルヲ
慨シ實業學校ヘノ入學ヲ奨
勵セリ 茲ニ同人功績中農

會關係事項ヲ列舉スレハ次ノ如ク

一 系統的農會ノ設立普及

一 農會法ノ制定並ニ國庫補助制確定

一 國府縣郡市町村是ノ確立

一 農区制實業大會ノ開設

一 產業組合法ノ制定

一 各府縣農事試驗場ノ擴充並ニ國庫補助増額

一 耕地改良區劃整理耕地整理法ノ制定

文 部 省

一 農業教育ノ普及發達

一 肥料價額引下並取締制度ノ制定

其他尚同人ハ貴族院議員ニ勅選セ

ラレ院內唯一ノ農學者トシテ重要ナル

農事問題頻出ニ際シ之ヲ解決シ

杞要ナル地位ニ立テテ盡瘁シ又霧

島山ノ我カ民族發祥ノ靈地ナル所

以テ高調ニ此ノ地ヲ以テ神ト人及ビ

皇室ト國民トノ連鎖點ナリトシ

島神宮奉賛會ヲ起シテ敬神

思想ノ涵養ニ盡力セリ

上述ノ如ク同人ハ我國農學界ノ
第一人者トシテ卓越セル識見ト確
乎タル實行力トヲ以テ多年斯界
ノ開拓ニ任シ功績洵ニ顯著ナルヲ認ム
然ルニ頃者病ニ罹リ遂ニ本月二十一
日薨去セリ 庶幾クハ此際其ノ功績
ヲ録セラレ特ニ生前ニ遡リ頭書ノ通
敘勲ノ榮ヲ與ヘラレシトシテ 右謹テ奏ス

昭和六年 四月二十七日

文 部 省

文部大臣 田中 隆三

農林大臣 町田 忠治



正三位勲二等農學博士 玉利喜造氏功績

氏ハ明治十三年駒場農學校ヲ卒業シ直ニ母校ニ教鞭ヲ執ルコトナリ
同十七年北米合衆國ニユーオルレアンスニテ萬國博覽會開催ニ當リ事
務官トシテ派遣セラレ其儘米國ニ留學ヲ命ゼラル、コトナリミシガン州々
立農學校ニ入學後マスターオブアーツヲ授ケラル氏ハ更ニイリノイ大學ニ學
ブ所アリ越エテ二十年留學滿期トナルヤ歸朝、途次歐洲各地ノ農事
視察ヲ命ゼラレタリ

當時駒場農學校ハ制度改メラレ東京農林學校ト稱スルニ至レルガ
歸朝後氏ハ直ニ同校教授拜命、明治三十三年同校廢セラレ東京帝國大學
ニ農科大學設置セラル、ニ及ビ農科大學助教授ニ任ジ越エテ二十四年教授ニ進
ミ畜産學講座ヲ擔任園藝學講座ヲ分擔セルガ後二十九年ニ至リ專ラ園藝
學講座ヲ擔任スルコトナレリ、斯クテ三十二年農學博士ヲ授ケラル 氏ハ元來

農學全般ニ精通スト雖就中國藝ト畜産トニ造詣深ク或ハ果樹蔬菜
ノ新種ヲ輸入試植シ或ハ産牛馬ヲ獎勵シテ品評會ヲ開催スル等學
窓ヨリ出デテ親シク當業者ニ接シ指導誘掖至ラサルモノナキアリ今日最モ
普通ナル苹果品種紅玉國光祝柳玉等ノ種名ハ凡テ氏ノ命名ニ係ルモノニ
シテ肥育鶏ノ去勢術ハ如キモ當時氏ニヨリテ初メテ實地ニ行ハレタルモノトス
氏ハ又豫テ高等農業專門學校ノ必要ヲ力説スル所アリ而シテ東北地方
ノ農事ガ尙未ダ極メテ幼稚ナル状態ニテリ且ツ農家ノ生計モ亦最モ貧弱
ナルヲ以テ該地方ニシテ創設スベキヲ主張シ遂ニ其議容レラレテ設計委員
ヲ命ゼラレ明治三十六年開校、俾ビニ至ルヤ初代高等農林學校校長ニ任
ゼラレ創設ノ際トテ大ニ努力スル所アリ

同校ノ施設漸ク完備セルヲ見ルヤ氏ハ更ニ鹿兒島ニ高等農林學校ヲ創設ス
バキントラ主張シ明治四十二年其實現スルヤ後初代校長トシテ之ニ轉ズルコト
トナレリ

蓋シ當時漸ク世論ニ上リタル本邦人口増加ニ伴フ海外發展ニ関シ單ニ無知
文盲ノ移民ノミニテハ到底將來ヲ期スベカラザルヲ省取シ宜シク土地ヲ基調トシテ
學識技能ヲ修德セル青年ヲ養成シテ移民ノ指導者又ハ個人企業者トシテ
之ヲ海外ニ送ルノ途ヲ開クト共ニ般國民ノ海外思想ヲ鼓吹シ當面ノ問題ヲ
解決スルノ一助ヲラシムベキ由ヲ政府ニ建言セルナリ之ヲ以テ學校ノ設計ハ固ヨリ
諸般ノ設備ニモシノ意ヲ體シ或ハ斬新ナル熱帶農學課目ヲ設置シ或ハ
自ラ滿州支那臺灣ヲ初トシテ遠ク蘭領南洋地方ヲ視察シ或ハ武下^部
職負ヲ派遣シテ各種ノ教授資料圖書動植物ノ標本等ヲ蒐集シ今ヤ
其點數萬ヲ以テ數フルニ至リ實ニ本邦唯一ノ熱帶一博物館建設ノ準備
ナレルモノアリ而シテ同校卒業生ノ就職ニ就テハ特ニ適材ヲ海外ニ派遣シ今ヤ
南洋各地海峽殖民地比率賓北米南米等ニ於テ確實ニ自營生計
ヲ樹ツルモノ其數五十ニ垂ントス若シ其レ臺灣朝鮮樺太等ノ殖民地ニ
分布セルモノニ至リテハ二百名ヲ越^超過セントス是レ實ニ其理想ノ一端ヲ漸ク實現

セルモノニシテ又其高風ニ共鳴スルモノ續出シ邦人ノ海外發展ノ機運ヲ誘
致セルモノト云フベク斯ノ如キ殖民思想ガ今日ノ如ク普及セルニ至レルハ其力ニ俟ッ
モノ極メテ多シトナス

又氏ノ鹿児島高等農林學校ニテルヤ本邦内自然湧出ノ温泉極メテ
多シト雖農業上其熱源ヲ利用スルコト無キヲ慨シ率先ニテ温泉熱利用
速成栽培ノ有利ナルヲ説キ縣下指宿村ニ於テ植物試驗場ヲ設置シ巧ミニ
天然熱源ニ依リ速成栽培ノ實ヲ舉ゲ其生産物ハ京阪地方ハ勿論遠ク東
京ノ市場ニ於テモ聲價ヲ高メツルノ現狀ニアリ而モ此ノ舉タルヤ一般ニ
蔬菜速成ノ有利ナルヲ知ラシメ同學校附近ノ農家ハ固ヨリ隣縣若クハ
本邦内ニ同種ノ企業ヲナスモノ輩出スルノ盛況ヲ呈マリ氏ハ實ニ温泉利
用ノ速成栽培去開拓者トシテ其効績偉大ナルモノアルヲ知ルベシ

氏ハ又同學校在職中既設ニ農學科及林學科ノ外更ニ養蚕學科
及農藝化學科ノ増設ヲ見一ハ比較的幼稚ナル九州地方養蚕家ノ

ノ指導ト斯學ノ普及ヲ圖リハ農業ノ重要ク素タル土壤肥料並ニ農産
製造等ノ學術的及ビ實地的啓發ニ資セントシ且ツ動モスレバ暖國的
緩ニ隨シ易キ南方農家氣風ヲ緊張セシメントシ今ヤ着々其効ヲ奏シ夫
等學科ヲ修メタル卒業生既ニ多ク數實務ニ從事スルト共ニ其誘導ニヨリ
地方生産能力ノ増進ヲ見ツアルハ亦氏ノ力與リテ大ナルモアリシコト疑フ容レズ
氏素ヨリ敬神愛國ノ念深ク近時一般思想ノ惡化ヲ憂ヒ夙ニ之ヲ矯正
唱導シ或ハ講演ニ或ハ刊行物ニ其意見ヲ吐露シ敬神ヲ以テ國民ノ信仰ヲ
統一セント期シ之ヲ以テ本邦獨特ノ家族制度ヲ延テハ世界無比ノ國體ヲ
永遠ノ安キニ置カシトテ希ヘリ又近クハ神代三神ノ一ツヲ祠ル霧島神宮ノ奉
讚會ヲ設立シテ自其會頭ト任シ一意思思想善導ニ努力セルハ衆目ノ等シク
認ムル所ニシテ方今治世上裨益スル所蓋シ僅少ニアラザルベシ
氏ハ又夙ニ民間ニ於ケル農事ノ進歩發達ニ力ヲ致シ既ニ明治二十二年六月

大日本農會ノ幹事トシ公選セラレ同二十六年十二月迄其任ニテリ以後參事ト
シテ三十五年十二月ニ及ビ其間又常ニ設議員トシテ盡瘁スル所アリシヲ以テ
明治二十九年二月紅白綬有功章ヲ同三十年五月紫白綬有功章ヲ
贈與其名譽ヲ表彰セラル

氏ハ又早クヨリ農業家ノ福利ヲ増進シ農事ノ改良ヲ圖ルハ農業團體
ノ設立ヲ急務トスル由ヲ主張セルガ明治二十七年大日本農會主催ノ全國農事
大會ヲ機トシ系統的農會ノ設立ヲ決議シ後幹旋大ニ努力スル所アリ明治三
十一年十二月遂ニ全國農事會本部ノ設立ヲ見ルニ至ル是レ今日帝國農
會ノ濫觴ナリ蓋シ百事業遂緩ニシテ保守的ナル農家ヲ率イテ僅々三五
年ノ間ニ全國府縣郡市町村ニ亘リス如キ系統農會ヲ組織セルモノ
亦異常ノ成績ト云フベシ

明治三十二年氏ハ系統農會ノ幹事長ニ任シ在任中幾多重要事項ヲ實
現セシガ就中産業組合法制定 産牛馬組合法制定 耕地整理法 並ニ

肥料取締法施行細則發布、農會令發布並國庫補助制確定、肥料取扱所設置、件、農區制、實業入會、開催、府縣農事、試験場、擴充、並補助増額、農業教育、普及、及發達等、ハ最モ力ヲ致サレタリ、明治三十三年四月ヨリ機關雜誌、中央農事報ヲ發刊シテ知識、普及、並中央地方、連絡、便セリ、而シテ前記、事項、ハ着々實行緒ニ就キ系統農會、基礎、亦漸ク確立セルヲ以テ三十六年ニ至リ幹事長ノ位置ヲ辞シテ盛岡ニ赴任セリ、後四十二年、帝國農會、設立セラル、ヤ特別議員トシテ會務ヲ參劃シ、以來大正六年ニ至リ其後ハ顧問トシテ今日ニ至レルモトス、

又前述肥料取扱所ハ農家ヲシテ優良ナル肥料ヲ廉價ニ得シメントスルモノニシテ農會監督、下ニ株式會社ヲ設立シ之ヨリ目的ヲ貫徹スルコトセリ、又明治二十九年日本勸業銀行設立ノ議ヲ起シ設立委員ヲ依頼セラレ、劃策スル所アリ、尚害蟲ノ天敵ヲ保護スル為、狩獵法制定ヲ促シ輸入鶏卵課稅問題ニ就テハ保護貿易ノ必要ニ諄々論陣ヲ張リ、常ニ農民團體

ノ味方トナリ代表トシテ商工ノ團體ニ當ル所アリ、農事ノ發展ニ関スル幾多ノ施設ガ氏ノ努力ニ依リ逐年實現セラレテ今日ニ至レルヲ思ヘ、明治聖代ノ農業發達史中、氏ノ効績ハ實ニ赫々タルモノアリト言フベシ、

右ヲ以テ氏ハ本邦農學界ノ第一人者タルコトハ衆目ノ一致スル所、其拔群ノ効績ヲ以テ勲一等ニ陞叙セラレ、ンコトヲ庶幾フ

鹿兒島縣士族

族籍

生年 安政三年四月

姓名

玉利喜造

明治十三年三月 農學科卒業候事

同年七月三日 備申付 月俸二十圓給與候事

同 農學校誌申付候事

同 農談會主問委員申付候事

同 農談會主問委員申付候事

同 是月俸二十圓之處五圓増給候事

同 駒場農學校助教

同 月俸金三十圓下賜候事

同 種藝開墾肥料農藝委員擔當可有之事

同 北米合衆國ルイシヤナ州ニウオルリアンス府ニ於テ萬國

工業并綿百年期博覽會開設ニ付事務官トシテ

差遣候事

博覽會掛事務取扱兼勤申付候事

履 歴 書

文 部 省

明治七年一月至本年二月十日ヨリ開設可相成萬國綿會議江島傍

聽出席一致追テ其景況ヲ復命可致事

同 依願免本官

同 米國留學申付候事

同 本年八月ヨリ向ニ今年間米國留學申付候事

同 但學費トシテ一ヶ月金百圓給與候事

同 米國ミシガン州州立農學校入學高等科修業

同 試験ヲ經テ Master of Scienceノ學位ヲ授ケラル

同 米國イリノイス州大學入學探科修業

同 米國留學滿期歸朝、途次歐州農事視察ヲ命ズ、農商務省

同 歸朝

同 任東京農林學校教授

同 敘奏任官五等

同 上級俸 下賜

同 未至二年五月開設佛國萬國博覽會出品調整委

農商務省

同

内閣

同

農商務省

同

農商務省

同

農商務省

同

農商務省

同

農商務省

同

農商務省

同

農商務省

同

農商務省

同

農商務省

同

農商務省

同

農務局

同

農務局

同

農務局

同

農務局

同

農務局

履 歴 書		文 部 省	
同 年 六 月 一 日	農科列品主任ヲ任ス	同	東京農林学校
同 年 青 春 五 日	農科事務長當選	同	東京農林学校
同 年 青 春 五 日	農科教務主任ヲ命ス	同	東京農林学校
同 年 四 月	幹事當選	同	東京農林学校
同 年 六 月	幹事當選	同	東京農林学校
同 年 十 月 五 日	本會農藝委員ヲ委嘱ス	同	東京農林学校
同 年 青 春 十 日	農学部部長ヲ命ス	同	東京農林学校
同 年 三 月 一 日	第三回内閣勸業博覧會審査官被仰付	同	東京農林学校
同 年 四 月 五 日	第五部 兼 勸業ヲ命ス	同	東京農林学校
同 年 五 月	幹事 重任	同	東京農林学校
同 年 六 月 十 日	東京農林学校官制被廢	同	東京農林学校
同 年 青 春 十 日	前官ノ非職ヲ命ス	同	東京農林学校
同 年 六 月 十 日	奨務取調ヲ命ス	同	文部省
同 年 六 月 十 日	任農科大學助教	同	内閣
同	教養任官五等	同	文部省
同	上級俸 下賜	同	文部省
同 年 青 春 十 日	教從七位	同	宮内省
同 年 青 春 十 日	任農科大學教授	同	内閣
同	教養任官四等	同	文部省
同	年俸金九百圓 下賜	同	文部省
同 年 八 月 十 日	官制及俸給令改正	同	文部省
同 年 青 春 十 日	九級俸 下賜	同	文部省
同	但當分年俸九百圓支給	同	宮内省
同 年 青 春 十 日	教 正 七 位	同	宮内省
同 年 青 春 十 日	高等官々等俸給令實施依リ高等官六等	同	宮内省
同 年 九 月 十 日	帝國大學令等改正	同	文部省
同 年 九 月 十 日	本俸五級俸 下賜	同	文部省

(二) 號

履 歴 書	文 部 省
同 年 十月九日 蓄産學講座担任ヲ命ズ	同
同 年 十月九日 園藝學講座担任ヲ命ズ	同
同 年 三月八日 園藝學講座担任ヲ命ズ 職務停金百圓下賜	同
同 年 三月八日 第四回内閣勸業博覽會審査官被仰付	内閣
同 年 三月八日 第三部勤務ヲ命ズ	第四回勸業博覽會審査官
同 年 四月三日 勸業教員養成方取調ヲ命ズ	勸業教員養成方
同 年 七月十日 陞叙高等官五等	文部省
同 年 七月十日 叙從六位	官内省
同 年 七月十日 本俸 四級俸 下賜	文部省
同 年 七月十日 園藝學講座担任及畜産學講座担任ヲ免シ	文部省
同 年 七月十日 更ニ園藝學講座担任ヲ命ズ	文部省
同 年 七月十日 明治十八年第四回内閣勸業博覽會審査官トシ	賞勲局
リ 同 到 綿 密 能 之 職 務 服 之 其 勞 功 著 著 ナリト	
ス 依 テ 明 治 十 四 年 十 二 月 七 日 勅 定 藍 綬 褒 章 一 ヲ	
賜 之 之 ヲ 表 彰 ス	
同 年 十月八日 日本勸業銀行設立委員被仰付	内閣
同 年 四月五日 俸給令改正ニ依リ六級俸	文部省
同 年 七月十日 勸業教員養成方取調ヲ解ク	文部省
同 年 六月十日 帝國大學ヲ東京帝國大學ト改称	内閣
同 年 六月十日 日本勸業銀行設立委員被免	内閣
同 年 七月十日 陞叙高等官四等	官内省
同 年 七月十日 叙正六位	文部省
同 年 七月十日 農商工高等會議臨時議員被仰付	内閣
同 年 七月十日 本俸 五級俸 下賜	文部省
同 年 七月十日 叙勲六等授瑞寶章	賞勲局
同 年 七月十日 農學博士ノ學位受領	文部省
同 年 七月十日 陞叙高等官三等	内閣
同 年 七月十日 叙從五位	官内省
同 年 七月十日 高等農林學校創立設計委員ヲ命ズ	文部省
同 年 七月十日 本俸 四級俸 下賜	同

(二) 號

明治
 六年一月
 三年
 十年

		同七年九月 陞敘高等官一等	内閣
		同七年二月六日 文部省社會教育委員ヲ囑託ス	文部省
		同七年四月十日 敘從三位	宮内省
		同七年八月十日 高等官々等俸給令改正	宮内省
		同七年五月十日 年俸金七百圓加賜	文部省
		同七年二月二日 貴族院令第一條第四號ニ依リ貴族院議員ニ任ス	文部省
		同七年六月十日 依願免本官	内閣
		同七年正月十日 特旨ヲ以テ位一級被進	宮内省
		敘正三位	宮内省
		同七年七月十日 鹿兒島高等農林學校名譽教授ノ名稱ヲ授ク	内閣
		昭和元年七月十日 金杯一箇ヲ賜フ	賞勳局
		同七年四月十日 薨去	

履 歷 書

文 部 省

(一) 號



文 部 省

内閣
文部省
第二四号

一玉利喜造叙勲ノ件
右 上奏書及進達候也

昭和六年四月二十七日

文部大臣 田中隆三

農林大臣 町田忠治

内閣總理大臣 男爵 若槻禮次郎 殿



裏面白紙